

(電子メール施行)
農技 第 1732 号
平成 28 年 3 月 29 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察技術情報 第 2 号を公表しました。

イネ縞葉枯病の発生が近年増加傾向にあります。例年イネ縞葉枯病の発生が多い地域では、防除等のご指導願います。

平成 27 年度 病害虫発生予察技術情報 第 2 号
イネ縞葉枯病の防除対策について

1 対象作物	水稻
2 病害名 (媒介虫)	イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)
3 対象地域	播磨地域
4 保毒虫率	一部地域で高い
5 ヒメトビウンカ発生量	やや少
6 ヒメトビウンカ発生時期	やや早い

7 イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率およびウイルスを媒介するヒメトビウンカ発生状況

- (1) 平成 27 年 9 月、10 月に水田で採集したヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫検定を行ったところ、県下 10 地点における保毒虫率は平均 3.2%であった。しかし、依然として保毒虫が各地に存在しており、保毒虫率が最も高い地点で 15.3%であった (表)。
- (2) 28 年 3 月中旬に県下 12 地点で調査した畦畔イネ科雑草におけるヒメトビウンカ密度は、昨年同時期の 2 割とやや少なかったものの一部で成虫が確認され、冬期の気温が高かったため昨年よりヒメトビウンカの齢期が進んでいると考えられる。
- (3) 同時期の調査では、小麦ほ場におけるヒメトビウンカ成虫の発生も見られており (5 ほ場/12 ほ場)、すでに越冬世代成虫のコムギほ場への飛び込みが始まっていることが伺われる。
- (4) ヒメトビウンカ越冬世代幼虫 (写真 1) は、水稻作付けほ場周辺のイネ科雑草において越冬し、例年 4 月頃に成虫になり、小麦ほ場など次の生息場所へと移動して繁殖する。ヒメトビウンカの小麦ほ場での増殖が例年より早いため、水田への飛来の助長が懸念される。

8 防除上の留意点

- (1) 越冬虫の生息場所であるイネ科雑草が繁茂している場合は、速やかに耕うんする。畦畔のイネ科雑草も除草する。
- (2) 小麦ほ場と水田が隣接している場合は、イネ縞葉枯病が発病しやすいため、小麦ほ場でのヒメトビウンカの防除が有効である。
- (3) 水稻苗箱施用殺虫剤の播種時処理は、移植直後から効果が期待できるので、イネ縞葉枯病対策に有効である。
- (4) 防除薬剤については、「兵庫県農薬情報システム※」等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

※兵庫県農薬情報システム(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(水稻)

	調査地点(検定個体数)	保毒虫率(%)
東部地域	加西市別府町(90)	2.2
	加東市社町(90)	1.1
	加東市滝野町(91)	2.2
	西脇市黒田庄町(90)	1.1
	多可町加美区(90)	0.0
	加古川市志方町(90)	1.1
西部地域	神河町(72)	0.0
	宍粟市山崎町(72)	1.4
	上郡町(72)	8.3
	姫路市香寺町(72)	15.3
	平均	3.3

平成27年9月～10月の水稻での採集個体を供試。簡易エライザ法により検定。



写真1 ヒメトビウンカ
(体色が黒い越冬世代幼虫)



写真2 水稻生育初期の発病(ゆうれい症状)
葉が退色して黄化し、こより状に
巻いて垂れ下がる。

この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222